

令和5年度シラバス（1年生用）

教科	地理歴史科		科目	歴史総合	単位数	2
学年	1 年生	コース	共通			
使用教科書	明解 歴史総合（帝国書院）					
副教材等	明解 歴史総合図説シンフォニア初訂版（帝国書院）					

1 学習目標と評価の観点の趣旨

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民として資質・能力を育成する。		
評価の観点の趣旨と定期考査の配点基準			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 定期考査の配点基準（目安） 60～70％	歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて構想したり考察したことを効果的に説明している。 定期考査の配点基準（目安） 30～40％	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者としてより良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

2 学習計画と評価方法

学期	単元	主な学習活動	考査範囲
1学期	歴史と私たち 歴史の特質と資料 <i>近代化への問い</i> 江戸時代の日本と結び付く世界	・身の回りの事象と世界の歴史が結びついていることを理解する。 ・絵画や統計データなどを事実と解釈を区別して読み解くことの重要性や歴史叙述の特性について理解する。 ・中学校までの学習で得た知識を総合して、近代以前の日本とアジア、ヨーロッパの結び付きを考察する。	中間考査
	欧米諸国における近代化 近代化の進展と国民国家形成	・市民革命により近代市民社会の基礎が築かれ、産業革命によって確立した資本主義による欧米社会の変化および国際分業体制の形成を理解する。 ・1848 年を境とする国民国家の形成過程を理解したうえで、第2次産業革命を経た欧米諸国の帝国主義政策が、どのように世界を変えたのかを追及する。	期末考査
	アジア諸国の動揺と日本の開国	・「西洋の衝撃」について、日本を含めたアジア諸国の対応に着目することで、「帝国の時代」としての近代を読み解く。	

2学期	近代化が進む日本とアジア <i>国際秩序の変化や大衆化への問い</i> 第一次世界大戦と日本の対応 国際協調と大衆社会の広がり	・明治時代の日本について、近代化に関わる資料を読み解いた情報と、中学校までの学習で得た知識を合わせて、日本の近代化の特徴を考察する。 ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解する。 ・第一次世界大戦後、国際協調のためのしくみが形成されたこと、総力戦により大衆が一層台頭するようになり、大衆社会が成立したこと、アメリカ合衆国を中心に大衆文化が育まれて世界に影響を与えていったことについて理解する。	中間考査
	日本の行方と第二次世界大戦 再出発する世界と日本	・第一次世界大戦後、重すぎる賠償や世界恐慌のなかで大衆が苦しみ、ファシズム勢力のプロパガンダが受入れられることにより戦争へ向かっていったことや、国際秩序がその流れに対抗できなかったという経緯を理解し、戦争に向かう原因や国際秩序の課題について追及する。 ・理想とされた新しい国際秩序である国際連合と、現実のヨーロッパ・アジアの冷戦構造のなかから戦後日本の政治の大衆化を読み解く。	期末考査
3学期	<i>グローバル化への問い</i> 冷戦で揺れる世界と日本 多極化する世界 <i>グローバル化のなかの世界と日本</i>	・グローバル化についての考察を深めるため、本章で扱う各国・諸地域の動向がほかの国・地域の動向とどのように関連しているか、冷戦期前半について、具体的事例を考察する。 ・グローバル化についての考察を深めるため、本章で扱う各国・諸地域の選択とその結果がほかの国・地域に及ぼした影響を理解し、冷戦期後半につながる具体的事例を考察する。 ・グローバル化が世界情勢にどのような影響を与えたのか、さらに私たちの生活がどのように変わったのかを理解する。	学年末考査
	各学期の観点別学習状況の評価（ＡＢＣの３段階）の方法 知識・技能＝定期考査および小テスト・確認テストなど 思考・判断・表現＝定期考査およびレポート・振り返りシートの作成、発表、グループでの討議 主体的に学習に取り組む態度＝ノートやレポートの記述内容、授業や活動の中での様子など 学年末の評価 各学期の成績から算出して観点別学習状況評価と評定を出します。		

